

たまいたま 川柳



銀座

平成30年(2018年)

12月号 (No.709)

日川協加盟

巻頭言

チパングということ

願法みつる

十三世紀に著された「東方見聞録」は、ご存知の通り、マルコポーロの旅行記である。極東に関して何も知らなかった中世のヨーロッパ人に、アジアへの目を開かせたとされている。時はモンゴル帝国五代目のフビライによる中国元王朝の頃で、日本では鎌倉時代に当たる。旅行記であるとともに地理書の内容である。自らの見聞の他に伝聞らしい部分もある。ともあれスケールの大ききには驚嘆する。豪華絢爛な宮殿絵巻から、なんとも野蛮な民族風俗までが、多彩に描かれており、飽きがない読み物でもある。日本関連の記事には、元寇遠征軍の失敗経緯や内容も記載されているが、これも伝聞である。

日本にとっての有意は、なによりもチパング(日本)の存在が、ヨーロッパに伝えられた最初の記述であること。黄金と真珠を産出する豊かな国として描かれていること。これによって西洋各国が貿易利益や宗教伝道を目指す引き金になったこと。そして鎖国的島国が世界に目を開くことを得て、その後の文化近代化の道筋を開いたことにあるだろう。仏教や儒教の伝来に続く文明史でもある。

そして筆者にとっての有意は、一冊の古本との出会いから、狭視野な老人の目が開いたことだった。

日日是好

願法みつる

神はただ頷くだけの木偶の坊

裏切ったのは神じゃない人間だ

裏切りを許した神が裁かれる

ほれご覧結局神は自分だろ

神のこと忘れてご覧日日是好